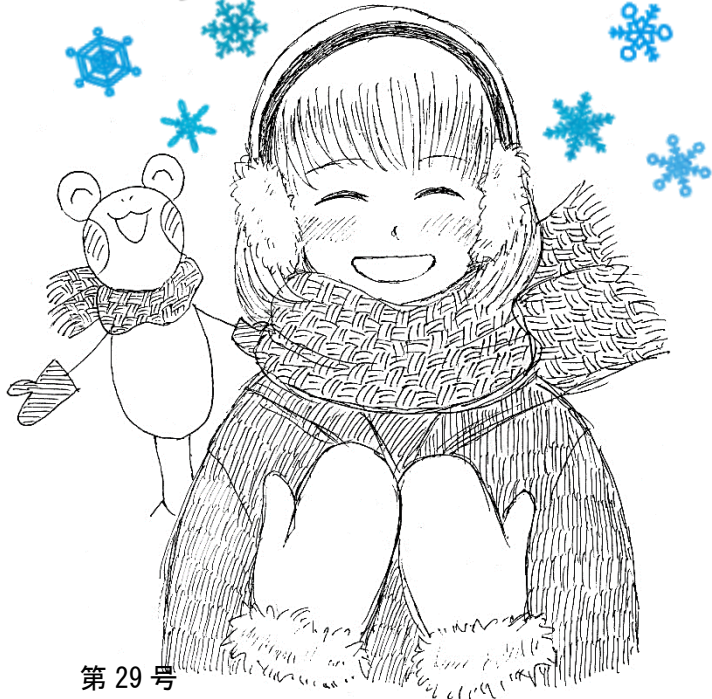


YAおすすめ ブックリスト



第 29 号
2018. 12 発行
くにたち中央図書館

チーム・えんのしたさん主催
「0円古本市」に
行ってきました！

2018年11月25日(日)・・・YAすたっふは一橋大学学園祭「一橋祭」に潜入しました。その目的はズバリ！古本リユースサークル「チーム・えんのした」さんが開催する「0円古本市」の見学です！！

「チーム・えんのした」さんは、「本と人をつなぐ」ことをモットーに活動している一橋大のサークル。「0円古本市」は、学生や教授から寄贈された本を無償で提供するイベントです。取材当日、古本市はお客さんで大にぎわい！くにたち図書館が提供した300冊の本もほぼ完売。YAすたっふも古本市を楽しく見学しました。

いつもは図書館内で作業することの多いYAすたっふ。これからは図書館の外に出て、市内の本好きスポットを巡ってみるのもおもしろそうです。

YAすたっふ&くにたち図書館企画

「ブラインドブックフェア」を開催します！

タイトルひみっ！中身もひみっ！

どんな本かわからない本を借りちゃう。
それがブラインドブックフェアです♪



図書館職員がネタバレしすぎないように書いた紹介文だけが、本を選ぶヒントです。

YAすたっふも、おすすめ本を選んで紹介文を書きました！
自分では手に取ることのなかった、運命の一冊に出会うチャンスです！
年明けはぜひ中央図書館に遊びに来てください！

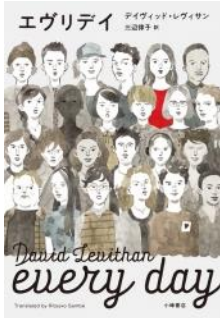
■期間 2019年1月4日(金)～1月18日(金)

■場所 中央図書館 1階 YAコーナー (1日5冊限定)
中央図書館 1階 今月の本棚 (1日10冊限定)

YA担当が選んだ☆



おすすめ本紹介



『エブリデイ』

(デイヴィッド・レヴィサン：著/小峰書店/2018.9)

主人公のAは、毎日ちがうからだで目覚めます。今日は男の子、また別の日は女の子…自分と同一歳の誰かのからだを一日だけ借りながら、

16年間生きてきました。Aは、自分のことを孤独だけど自由だと感じています。過去に囚われることも未来に悩むこともなく、宿主のからだを借りて「現在」を生きることができればそれで十分だと思っていました。そんなAが、リアノンという女の子に恋をするところから物語は始まります。

この物語に描かれているのは、まっすぐな愛です。恋に落ちる瞬間、好きな人と二人だけの空間をつくる感覚、誰かをいとおしいと思う気持ち……。

愛という目に見えないものを見事に書き上げた著者に拍手。今年一番感動した本です。

『青い春を数えて』

(武田綾乃：著/講談社/2018.8)



部活・友達・受験・家族・将来、そんなありきたりな学生たちの悩みを描いた青春群像劇。異能に目覚めることもなく、異世界へ飛ばされることもなく、勇者が救ってくれる

こともありません。自分が出した答えを、あきらめと思うか、最良と思うか、そんなことをグルグル他人を巻き込みながら考える物語です。

おまけに悩み事はスッと解決されるわけではありません。他人との交流から自分で出した答えを自分で消化していく感じです。

微々たる一歩、だけど昨日までと見える世界が違う一歩。

誰もが経験してきたことだから、読んで共感しやすいかもしれません。

『人生を変えるアニメ』

(池澤春菜：著ほか/

河出書房新社/2018.8)



「アニメは子どもの見るもの」なんてよく聞きますが、子どもじゃなかった人なんていないから、誰が見たっていいのです！

という屁理屈は置いておいて、

アニメを一度も目にしたことのない人はいないと思います。よく分からないけど大好きだったり、なんとなく印象に残っていたり、そんな作品がひとつくらいあるはずですよ。

この著書はいろいろな職種の良い大人たちが、自分の人生にかかわった、これぞ！というアニメ作品を紹介してくれます。

「人生を変える」とありますが、そんなにかまえずとも大丈夫。自分達を魅了したアニメを

「大好き！」って気持ちを、伝えたい人たちの集まりです。まあ聞いてやって下さい(*´-ω´)小説が原作の作品もあるので、気になったら、ぜひ図書館で借りてみてください。

『ぼくがスカートをはく日』

(エイミ・ポロンスキー：著/学研プラス/2018.8)



グレイソンは12歳の男子。ラメ入りのペンが好き。スカートや、レースのついたシャツが着たい。そんな気持ちを押し込める毎日。体がどんどん男らしくなるのが嫌でたまらない。

ある日グレイソンは、学校で行なう演劇のチラシを目にし、オーディションを受けることにした。希望する役は、女神ペルセポネ。

心ない言葉をかけるクラスメート、心配のあまりやめさせようとする家族。「やりたいって言ったのはぼくだよ！」

自分の気持ちに嘘をつくのは苦しい、でも正直に生きることも簡単ではない。グレイソンの気持ちがひしひしと伝わってきます。

上記の本は、くにたち図書館に所蔵しています。貸出中の場合は、予約をしてね☆